



# 絆をふかめよう

## 子どもの笑顔のために

# 長野県PTA新聞

発行  
長野県PTA連合会  
長野市旭町1098信濃教育会館内  
TEL 026-233-4261  
発行者/今井仁志  
編集者/幸引 聡

ホームページ  
http://www.pta-naganokenet  
E-mail  
office@pta-naganokenet

## 身近な学校 ～安心して出席～

さまざまな理由から出席者が限られてしまうこともある学級懇談会。しかし、保護者が顔を合わせ、先生を交えて、子どものことや自分の思いを気軽に話したり、聞いたりできる学級懇談会は、保護者にとって有意義な場である。

長野市の芹田小学校では6年前から、年度当初の参観日には、保護者が学級懇談会に出席している間、子どもたちは、全校集会で読み聞かせやゲームをして待っている。その後、一緒に帰っていく。大勢の親が、安心して学級懇談会へ出席できるようになり、保護者同士のコミュニケーションも活発になってきているようだ。また、出席できなかった保護者のために学級懇談会の様子を知らせるお便りが、PTAから発行されるクラスもある。少数の先生方で、全校集会を行うことは大変であるが、保護者の出席を願う、学校側の配慮がありがたい。

## 学校に顔を出そう

授業参観や、親子で行うボランティア活動・学級レクレーション等、学校に顔を出す機会は、いくつもあるものです。そんな中でも保護者の参加が多いのが、運動会や音楽会、文化祭です。子どもたちが真剣に取り組んでいる姿を応援したい、そんな親心が自然と足を運ばせるのかもしれない。長い時間をかけて練習や準備をしてきた子どもたちは、照れながらも、保護者が学校に見に来てくれることが何より嬉しそうです。

学校という子どもにとっての社会の中で、子どもたちは日々の生活を送っています。保護者は、家庭とは違うわが子の姿に触れ、驚

きや喜びを感じると思います。その思いを子どもに伝えたり、認めたりしているうちに、親子の会話は増えていきます。話をすれば、その子の考えていることや感じていることも理解でき、自然と子どもの心に寄り添えるのではないのでしょうか。

また、この機会に保護者同士も顔を合わせ、いろいろな話をする中で、子育ての悩みが解消するきっかけになることもあるでしょう。就労形態が多様化し、休みが取れづらくなっているかもしれないが、子どものために時間を作り、学校に足を運び、親子の絆・保護者同士の絆を深めたいものです。

### CONTENTS

県P研究大会上小大会 …… 2面



第2回長野県PTA研究大会上小大会を、上田市市民会館で開催しました。

校長会との教育懇談会 …… 3面



校長会と県P代表との教育懇談会が小中二つのグループに分かれて行われました。

単P訪問 …… 4面



北信・東信・中信・南信の小中学校から、独自のPTA活動を紹介します。

## 子どもと一緒に 楽しみながら

今年で発足十年目を迎える池田町の池田小学校「おやじの会」は、地域の子どもたちが健全で心豊かに育つことを願って活動を行ってきている。毎年、PTAより会員を募集し、楽しみながら子どもと関わっていくことを第一に考え、活動内容を決めている。また、出たい時に出る、出られる時に出るという「自由参加」が基本となっている。

今までの活動を振り返ると、ボランティア作業として、一輪車のペンキ塗りやトイレの床磨き等校内整備のお手伝いを行ってきた。また、親睦を深めるために、親子でそば打ちや七夕まんじゅう作りも体験した。他校とのスポーツ

交流会や外部講師を招いての研修会、校長先生との意見交換会等、活動は多岐にわたっている。中でも、校舎と校舎の間に綱を張ってあげる「雙のぼりあげ」は、子どもたちも楽しみにしている活動であり、十年間欠かしたことがない。「おやじの会」が参加を呼びかけることで、父親が自然と学校に行く機会が増え、先生とも信頼関係が深まってきている。



「親子で触れ合い、体験することから、子どもは多くのことを学ぶだろう。子どもに心と目を向けて、共に成長していきたい」と、四人の子どもの父親である小山代表は、穏やかに語ってくれた。

私は参観日や運動会、音楽会など、機会のあるたびに、学校へ行つて子どもの様子を見るようにしている。郡市・県Pの役員になった今年度は、平日の会議が多く、時間のやり繰りが大変である。しかし、それで学校に行けないのでは、「本末転倒」になってしまふと思ひ、なんとか顔をだしている。参観日の教室では、後ろを気にしてこちらをちらちらと見ている子どもの姿が見える。お家の方の姿を発見して笑顔になる子、恥ずかしくなる表情を見せる子、知らん顔をする子など、反応はさまざまである。しかし、そこには嫌だという雰囲気は決してなく、むしろ安心したという感じが伝わってくるような気がする。

社会の情勢がめまぐるしく変化していく近年、運動会などの行事には、何とか時間を作って子どもの姿を見に行けても、参観日までにはなかなか休みの取ることが難しい状況もあるかと思う。次代を担う子どもたちを、みんなの力で育てようという「家庭教育推進協力企業制度」を設けている県もある。参観日や学校行事等への参加の働きかけや、休暇を取りやすい職場環境づくりの取組を推進するというものだ。

今後、全国的にこのような制度が確立され、保護者ももっと学校に顔を出しやすくなることを願う。参観日に子どもたちが見える、はにかんだような笑顔が、より多く見られるようになるために。

(R・O)

僕たち! 私たち! がつくっています!

MADE IN SHINSHU

# 信州の牛乳

長野県生乳生産販売委員会  
信州 北信・東信・中信・南信  
JA全農長野  
長野県牛乳普及協会



# 第52回 長野県PTA研究大会 上小大会

## 真田氏発祥の郷で親子のつながりを学ぶ

十月二十四日上田市市民会館において、研究大会が開催された。大会テーマ「家庭が原点」は、家庭の中でしっかりと子どもと向き合おうというもの、県内各地から二〇〇名余の会員が参加した。今井仁恵会長・渡邊務大会実行委員長のあいさつに続き、長野県教育委員会教育長の山口利幸氏、開催地上田市教育委員会教育長の小山崎一氏が来賓の祝辞を述べ開会した。



### 研究協議 「家庭が原点」

「家庭の中でしっかりと子どもと向き合おう」(コーディネーター) 百瀬敬子氏(親業訓練協会インストラクター)

研究協議は、家族の信頼関係をどう深めていったらよいかを題材に進められた。教育問題検討委員が、心を閉ざしてしまおうような出来事の時劇を行った。それを受けて、会場全体では人間関係を深めるためのコミュニケーションに関するロールプレイをしながら親子の会話を学んだ。

「学校へ行きたくない」と言う子どもに対して、親は「行きなさい」という言葉に終始。逆に子どもは「もう行かない」と反抗してしまう。

「腹が立った時の対応」 腹が立った時の怒りの感情は第二感情で、その奥にある第一感情に気づくことが大事。第一感情とはたとえは帰宅の遅かったり、

さらに、信頼関係を深めるために、もっと効果的な聞き方として「繰り返す・言いかえる・気持ちをくむ」という能動的な聞き方がある。

「メディア漬けで壊れる子どもたち」 子どもたちがテレビ・ビデオに接触することの安全性・有効性は、これまで世界のどの国でもたまたま証明されていない。子どもをそうしたものには接触させることには、極めて慎重であるべきだ。これは、二〇〇四年「日本小児科学会」でのアメリカの小児科学の専門家スティーブ・パーカー博士の発言である。では、どれほど危険であるか、この発言のテレビ・ビデオという部分を、薬や食べ物に置き換えてみるとよくわかる。世界三〇カ国を対象に行った調査では、電子メディアに接触する時間が最も長いのが日本の子どもたちであつた。

### 清川 輝基 先生

#### プロフィール

宮崎県出身。1964年 東京大学教育学部教育行政学専攻卒業。NHK長野放送局長、NHK放送文化研究所研究主幹(メディアと子ども研究プロジェクト)などを歴任。現在、NPO子どもとメディア代表理事、NPOチャイルドライン支援センター代表理事などを務めている。



た。つまり、日本の親たちは、安全性が一度も証明されていない電子映像機器に、わが子を長時間接触させているのである。今日多くの母親は、何のためらいもなく、赤ちゃんにおっぱいをあげながらテレビやビデオを見たりメールを打ったりしている。授乳期は、赤ちゃんにとって母親とのアイコンタクトや言葉かけにより、視力も心も発達していく大事な時期である。それが無意識に阻害されているのである。

一九五三年にテレビ放送が始まり、一九八〇年代からはゲーム・ビデオ・パソコン・ケータイ等、次々と電子機器が私たちに生活に入り込み、影響を及ぼしてきている。子どもたちの生活では外遊びや読書が減り、家庭内での親子の会話が激減していった。それに伴い子どもたちのコミュニケーション能力は、著しくレベル低下した。言葉で問題を解決できない子どもは、キレて暴力で解決するようになり、二〇〇九年には小・中・高校における校内暴力が年間六万件にも及んでいる。また、子どもたちの体の発達においても同様なことが言える。外遊びの減少は、体を育てる時間を減らすこととなり、その結果子どもたちの運動能力や体力は低下の一途をたどっている。

メディア接触と学力との関係を見ると、全国学力調査に如実に表れている。このような実態を受け、各地でノーメディアの取組が始まっている。

ある自治体では、メディアとの接触を家族全員でコントロールし、生活の見直しも同時に行ってきた。その結果、家庭で親子の会話が再開、学習時間が確保できるようになり、生活リズムも整ってきている。親もテレビに子守りをさせていたことに気づき、積極的にこの活動に協力するようになった。

日本の子どもたちが、言葉の力を獲得し、体や心を健やかに育むために、メディア漬けの生活からどう抜け出すか。このことに日本の未来がかかっているのである。PTAは、それぞれの地域で、しっかりとメディア問題に向き合い、取り組み、働きかけていくことが大事である。

### 大会宣言決議

- 一、私たちは、親として教育の原点である家庭のあり方を学び、しっかりとした規範意識と判断力を身につけ、子どもとともに成長できるPTA活動をめざします。
  - 一、子どもたちが安全な環境の中で安心してのびのび生活できるように、家庭・学校・地域の連携を深めるためのPTA活動を推進します。
  - 一、子どもたちが自然や人を受容する豊かな心を育み、たくましく生き抜く力を身につける事が出来るよう、見守り、導き、支援するPTA活動を実践します。
- 平成22年10月24日 第52回長野県PTA研究大会 上小大会

### まとめ

この他にも、落ち込んで悩んでいる子どもとの会話や、夫婦の会話のロールプレイを行った。どちらの場合でも、相手の気持ちをくんでやるのが大事。また、夫婦喧嘩のときは、お互いの気持ちのほかに、そこにいる子どもはどんな気持ちでいるだろうか考えたい。夫婦の間には常に子どもが存在している。子どもには安心できる場所が必要である。百瀬氏は「家庭のすべての基本は人と人との信頼関係。よい信頼関係のある子どもは、自然にやる気がでて学力も伸びる。また、信頼関係がうまくいくことで、家庭の中でしっかりと子どもと向き合うことができる」と述べ、協議のまとめとした。

大切なお子さまのための保険です

## PTA小・中学生総合補償制度

ケガをした 通院1日目から補償  
ケガをさせた 友達に大ケガをさせてしまった  
病気で入院した 日帰り入院から補償 ※Hプランのみ

- 24時間いつでもどこでも補償します
- 個別加入に比べお得です(団体制度のため約43%割引されます)
- 保険料は年間3,000円からのパターンをご用意しております

長野県PTA連合会が平成10年より導入している制度です。詳しい補償内容については学校配布のパンフレットをご覧ください。

制度引受会社: 共栄火災海上保険株式会社 〇お問合せ: 小中学生総合補償制度担当係 電話: 026(234)2180





# 校長会との教育懇談会

今井会長は冒頭「懇談会を通して先生方と保護者が一つの方向に向けて話し合う事が、子どもたちのよい土壌作りとなる」とあいさつした。懇談会は昨年度と同じく小学校・中学校の二つのグループに分かれて、話し合われた。

## 小学校分科会

学力・学習問題について  
全国学力・学習状況調査の結果はほぼ全国平均ではあるが、さらに学力向上のために日々の授業改善に向けての取り組みが大切である。  
特にB問題(活用に関する問題)については、生活経験や実体験を通して最後まで考える力、努力する力を身に付けていく事が重要である。  
不登校に関して  
前年に比べ不登校は減少。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活動、支援員の配置などの取り組みの成果が見られる。しかしながら依然として全国平均を大きく上回る状況にあり、学力問題とともに最重要課題である。



五川中学校校長会あいさつ

## 中学校分科会

学力・学習問題について  
全国学力・学習状況調査はB問題について無回答率が高かった点を指摘

最後まで取り組もうとせずあきらめてしまう意欲の低下が見られる。基礎学力の充実を図るとともに、学習の中で子どもたちが自ら検討しあい、粘り強く結論を求めていく授業を確立させることが大切である。

## 携帯電話について

学校の届かない範囲で使用できる携帯電話。所持する年齢は低くなってきている。親は「心配だから」とつい持たせてしまう。これまでも、危険性について指導してきたが、最初が肝心であり、早い段階で学校と家庭が連携した子どもを守るための教育が求められる。

## 不登校に関して

昨年にならば不登校の在籍比率が下がるとともに復帰している子どもの率も高い。成果は上がってきている。今後の課題として、子どもだけに目を向けるのではなく、保護者と子ども双方へのきめ細かい支援が望まれる。

## 終わりの会で、小学校

長官の山岸深志先生は「学校の在り方について考えさせられた。課題の現状にふれ、校長の責任において学校の方向を示す事が大事。多くの事を教えて頂いた」と結んだ。

# ちば大会

## 第58回日本PTA全国研究大会

## 第42回日本PTA関東ブロック研究大会

いつになく猛暑となった今年の夏、全国各地より約八千人が、ちば大会に参加した。



広報紙コンクールの表彰式

大会初日は、八つの分科会と二つの特別分科会が開催された。各テーマに沿った基調講演、実践発表、パネルディスカッションが行われ「子どもたちのきらめく笑顔のために」という趣旨のもと語り合い、考え合うことができた。

私が参加した日P主催の特別分科会では、長野でも馴染みの深い、認定NPO法人スベシャルオリンピックス(SO)日本名誉会長の細川佳代子氏の「知的障がい者から学んだ、生きるということ」と題した基調講演が行われた。

細川氏は六〇年続けてこられたボランティア活動を通して「生きる」との意味や、命を育んでくれた親や先祖に対する想いを語った。地道で気持ちを動かす活動は、PTA活動と共通する取組

であり、見習っていききたいと感じた。

また、第四分科会(広報活動)では第三十二回

全国小・中学校PTA広報紙コンクールの表彰式が行われた。本県からは、飯田市立伊賀良小学校PTAが日P会長賞を、また松本市立旭町中学校PTAが佳作を受賞した。

二日目の全体会では、日本を代表するトップテニスプレイヤーとして活躍した松岡修造氏による「叱って ほめて 抱きしめる」と題した、熱意あふれる語りの記念講演が行われた。

講演の中で松岡氏は、海外での試合においてミスすることを得た成功の

平成22年度の文部科学大臣表彰および、日本PTA全国協議会会長表彰の表彰式が11月26日、東京都千代田区のホテルニューオータニで行われた。本県からは、4校の単位PTAと4名の功労者が表彰の栄を受けた。

# 全国表彰

## 文部科学大臣表彰(団体)

松川町立 松川北小学校PTA

松川北小PTAは、学校における各学年の勤労生産活動の支援や、子どもたちの読み聞かせボランティア等を行っている。

また、元PTA会員と現PTA会員が連携をとり「ふるさと探検隊」という組織を作り、低学年の「そぼづくり」などの活動に協力している。

児童の登下校の安全を見守る地域ボランティアの「北小見守り隊」は、地域の方に協力を呼びかけ、育成会とともに組織化し五年になる。保護者から地域の高齢者までおよそ六〇人が参加し、意欲的な活動になっている。

「放課後子ども教室」には、およそ五〇人の児童が登録しており、その運営に関するスタッフには、PTA会員がボランティアとして参加している。

## 日本PTA全国協議会会長表彰(団体)

松川町立 松川東小学校PTA

松川東小学校は、山の中の小さな学校である。PTA会員が全員役員となり、一体となってPTA活動を行っている。

春・秋の環境整備作業、運動会等は、PTA会員だけでなく、準会員や多数の生東地区住民の参加により支えられ実施している。

またPTAとして、平成二十一年度に五ヶ年少子化対策事務局を設置した。子どもたちのために、地域と連携しながら「東小の今後を考える会」を運営している。

昨年度は創立五〇周年を迎え、五〇周年記念事業事務局を設置し取り組んだ。PTAとして五〇周年記念誌の発刊、式典の計画・運営、タイムカプセルの実施など、会員一人一人が力を合わせて成功させることができた。

高山町立 高山小学校PTA

高山小PTA活動の一環として行っている「わくわく村」は、平成十五年度PTA主催の「親子わくわくデー」として開催され、翌年からは年間を通しての活動となった。切り絵、絵画教室、木工工作、高山太鼓の演奏など、それぞれの講座の成果は校内の「しらかば学習発表会」において発表されている。

「わくわく村」は、高山村村長はじめ、教育委員会、歴代PTA役員、学校職員、現PTA役員など五〇人を超えるメンバーで組織されている。さらに公民館、社会福祉協議会、村保健福祉センター、地域ほたるの会など村を挙げての支援を頂いている。このように地域が一体となっており、子どもたちがよいものに触れることができる環境作りがなされている。

松本市立 奈川小中学校PTA

奈川小中学校PTAは、小学校・中学校の併設学校として活動を行っている。親子揃っての校舎内外の清掃作業、年二回の資源物回収と夏休みの葉草採集等を行っている。

毎年五月には、松本市奈川地区観光協会主催の「野麦峠まつり」に参加。山行はPTAが主体となり、児童生徒は女工や検番に扮して歩く。生まれ育った地域の文化歴史に触れられる活動になると共に「野麦峠まつり」のメインイベントとなっている。

また、学校・公民館の共催による運動会や、公民館主催の「クリスマスコンサート」にPTAが協力するなど、奈川地区の文化活動の一翼を担っている。地域の活動に主体的に参加し、地域の振興に大きく貢献しながら、子どもたちの健やかな成長に大きく寄与している。

## 日本PTA全国協議会会長表彰(個人)

宮脇 実(上水内) 坂本 乃里子(更埴)

松本 孝之(長野市) 田口 俊久(木曾)

(敬称略)

# 県Pの動き

## 第58回日本PTA全国研究大会

## 第42回日本PTA関東ブロック研究大会

## ちば大会

花・海・房 房の国 集い語れば 実りあり  
8月27・28日、千葉県において日P全国大会が開催され、県内より160名が参加した。初日は10の会場で分科会が、2日目は全体会として記念講演が行われた。また、来年度開催される関東ブロック長野大会の代表あいさつとPRで参加を呼びかけた。

## 県小・中学校長会と

## 県PTA代表者との教育懇談会

9月24日、信濃教育会館において、校長会との懇談会が行われた。校長会からは7名、県Pからは14名が参加し、小学校・中学校のグループに分かれ話し合われた。

## 第34回長野県同和教育研究大会

### 差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう

9月28日、長野県総合教育センターにおいて、同和教育研究大会が開催され、県Pからは12名が参加した。前信濃毎日新聞特約記者のシルビー・ジャコ氏の「私から見た日本の人権」と、部落解放同盟長野県連合会の小林健氏の「我が家の保育」と題した講演会が行われた。

## 第52回長野県PTA研究大会

## 上下大会

### 「家庭が原点」

### ～家庭の中でしっかり子どもと向き合おう～

10月24日、上田市民会館において県P研究大会が開催され、1200名余が参加した。来年度、同プロ大会として開催される長野大会への参加協力を呼びかけた。

## 長野県PTA連合会 会長表彰

## 団体表彰 上下地区PTA連合会

※大会の詳細についてはホームページに掲載

## 第9回 信州「教育の日」中野大会

### ともに学び ともに育つ

### 環境づくりをめざして

11月20日、中野市民会館において、信州「教育の日」中野大会が開催され、県内から600名余が参加した。「学びの発表」として木島平村立木島平小学校、中野市立高社中学校、長野県中野立志館高等学校がそれぞれ発表した。また「教育の日」に寄せて募集された絵手紙作品の表彰式が行われた。シンポジウムでは「あなたは子どもとどのようにかかわってききましたか～これまでの自分のかかわり方を見返し今後のあり方を考える～」と題して討論が行われた。





# 単位PTA訪問

# 北から、南から

# No.69

## 地域と共にあゆむ地域の中核校として

大町市の中心部に位置し、北アルプスを背景に春満開の桜並木が学校のシンボルである。歴史と伝統を誇る地域の中核校であり、現在は323名のアルプスっ子たちが元気にのびのびと学ぶ。



**大町市**  
**大町西小学校**  
さくらを守る会  
昭和六年、地域の青年団などの方々が植樹して育ててくださった百本以上の桜。毎春、壮麗に咲いた桜の花のトンネルが新入生を迎えてくれる。

**スポーツ懇親会**  
PTAの一大行事として、学級対抗の綱引きとフリースローを行う「スポーツ懇親会」を年に一度開催する。揃いのTシャツで団結力をアピールする高学年の学級も、保護者

シンボルである桜並木を後世にまで伝えたいとの思いから、歴代の校長先生やPTA役員が中心となって「西小 さくらを守る会」が結成された。消毒や剪定などの地味で大変な作業ではあるが、この活動が、児童の心を豊かに育てるための学校行事や学習に反映されていることで苦勞も癒される。



同士が初めて顔を合わせる一年生の学級も、みな名譽と栄光、そして子どもたちへ勝利の報告をするべく団結して綱を引き合う。その姿には「これぞ親はかパワフル!」と思わせる。競技終了後の全体懇親会では、勝ち負けに関係なく互いに楽しく言葉を交わし合う。その光景からも、西小PTAの団結力を感じさせる。(文/西澤 和保)

## 家庭・地域・学校の連携をめざして

高社山と志賀高原の麓、上信越高原国立公園の中心に位置する。中学校統合46年が経つ現在も、建学の精神「場を清め、時を守り、礼を正す」を学校の誇りとして生徒418名が学ぶ。



**山ノ内町**  
**山ノ内中学校**  
地域ボランティア  
アでの取組  
本校PTAでは、生徒たちが頑張る姿を活動しているその姿を支えるべく、様々な取組を行っている。その一つに、小澤征爾先生をお迎えしてのコンサートがある。志賀高原が緑で始まり、今年で二五回目を数えたが、生徒会中心の取組に、PTAが毎年全面的に協力している。

近年、学級PTAなどで「地域での生徒のあいさつが弱くなってきた」「地域のことをよく知らない生徒が多い」など、家庭・地域と学校で連携して考えていきたい課題が出てきている。当日は、地区の公園や駅における草取りや清掃、通学路のごみ拾いなど、各地区の保護者と生徒が一緒に活動した。終了後は、用意した飲み物で一休みすることもでき、充実した一日を過ごすことができた。今までも、伝統的にボランティア活動を行っている地区もあったが、多くの地区では初めての試みであった。そのため、今後検討していきたい。今年度初めて行うPTA校外指導部を中心として、夏休み中に各地区でのボランティア活動を取り入れた。夏休み前の地区生徒会に、各地区のPTA地区長が参加し、生徒たちと共にできそうなボランティア活動を考えていく。今年度初めて行うPTA地区長がアドバイザーとして、地区が多かったために、場所や内容について地区長がアドバイスした。



一日を過ごすことができた。今までも、伝統的にボランティア活動を行っている地区もあったが、多くの地区では初めての試みであった。そのため、今後検討していきたい。今年度初めて行うPTA校外指導部を中心として、夏休み中に各地区でのボランティア活動を取り入れた。夏休み前の地区生徒会に、各地区のPTA地区長が参加し、生徒たちと共にできそうなボランティア活動を考えていく。今年度初めて行うPTA地区長がアドバイザーとして、地区が多かったために、場所や内容について地区長がアドバイスした。

## 真理の追求・自主自立・質実剛健

諏訪湖を一望できる丘の上、高島城址北東の方角に位置する。63年間の長き伝統を脈々と受け継ぐ手長丘に、3つの基本目標を指針として勉学にスポーツに励む生徒272名の上中魂が集う。



**諏訪市**  
**上諏訪中学校**  
PTA親子共同作業と鍋の会  
梅雨の合間を縫って日頃お世話になっている校舎・校庭・体育館の整備を目的として、親子共同作業を実施した。校舎内のペンキ塗りから始まり、体育館のワックス掛け、校庭のワックス掛け、校庭の草取り、中庭の側溝の泥

地域との共存  
毎年の恒例行事となっている諏訪湖清掃。春・夏・秋に地域の方々と共に実施している。朝六時から、郷土の誇りである諏訪湖を黙々と清掃する姿は実に清々しい。

上げ等、参加者全員が心地よい汗を流すことができた。また、その後には、PTA役員お手の豚汁がふるまわれた。作業の後というところもあり、中学生のみならずお代わりをする保護者も満足できる一日となった。



また、今年諏訪地方は七年に一度の御柱祭りの年である。当校に隣

## 進んで考え、思いやりをもって、たくましく

鰐科山の麓に位置し、田園地帯やりんご畑など恵まれた自然環境の中、広い敷地の学校で児童417名が学ぶ。家庭・学校・地域が一体となって温かく見守り、子どもたちの健全育成を目指している。



**立科町**  
**立科小学校**  
ノーマメディアデー  
家庭でのテレビ視聴時間の多さが、生活習慣の乱れや家庭学習への弊害を生み、子どもの脳や心身の成長を触らしている。このような調査結果を受けて、昨年度は、今年度は、PTAの

そのために、町内の子どもたちの生活実態を調査するアンケートが実施された。このように、一単位PTAで始めた活動が、町全体としての取組になりつつある。これらの結果をふまえて、第三回目の「ノーマメディアデー」の実施を呼びかけるとともに、今後さらなる取組の充実を図っていく予定である。(文/永原真由美)



自然豊かな地に家族で住んでいた時のことだ。ある冬の日の朝、新雪で辺りは一面の銀世界となった。早速、住宅周辺の除雪作業に取り掛かった。息子たちもお手伝いをすると一言で一緒に外へ飛び出して来た。微力ながらも、しばらくは雪かきをしていった息子さんたちであった。しかし、駐車場に雪山ができてしまうと、いつの間にかお手伝いはそっこのけとなり、息子たちは、木霊が返ってきそうな元気な声をあげて、そり遊びに興じていた。そして、ついには家族全員を巻き込んでのまくら作りで日が暮れた。今でも雪が降り積もりそうなのは、その頃のこととが自然に親子の間で話題となり、思い出話に花が咲くことがある。

- 編集後記**
- 日常生活の何気ない出来事が「そういえば、あの時こんなことがあったよね」と、家族で会話するきっかけをつくってくれることがある。家庭で子どもと共に過ごすことや、家族の絆を自然に深めてくれるようにも思う。(S・A)
- 広報委員**
- 荻原 公和(上高井)
  - 小山 恵里香(長野市)
  - 池上 浩(更埭地)
  - 白澤 良次(北地)
  - 柿澤 輝幸(諏訪)
  - 赤羽 聡(上高井)
  - 宮下 光夫(安曇野市)
  - 晶山 信重(飯水)
  - 西澤 真利子(長野市)
- 編集委員**
- 赤羽 聡(高山中)
  - 小笠原 幹夫(北中頭)
  - 古川 律子(附属中)
  - 池上 敬子(附花中)
  - 木内 京子(安曇里小)
  - 伊東 貴世(後町小)
  - 柳澤 真美(櫻ヶ岡中)

小学3~6年生のみなさまへ

ちゅうでん小学生サイエンスクラブ

# エレクト

みんな待ってるよ!

**中部電力**

**会員募集!**

見て、ふれて、体験して！  
科学やエネルギーが楽しくなるよ!

お問い合わせ先  
ちゅうでん小学生サイエンスクラブ「エレキッズ」事務局  
☎052-201-7455(土・日・祝日を除く 9:30~17:30)

お申し込み方法  
携帯電話の場合 <http://cep.jp/kids/>  
ホームページの場合 <http://www.chuden.co.jp/kids/>